

YA 担当に聞く!! 中高生時代にハマった本

『君の隣が食べたい』住野 よる／著 双葉社
タイトルに惹かれ、2時間で読破しました。友人達と感想を言い合いましたが、とにかく「感動した!」「文章が凄かった!」と叫び続けていたことを覚えています。その後、皆「もう一回読む」と宣言して解散しました。



司書 H



司書 M

『ハリー・ポッターと賢者の石』

J.K. ローリング／作 松岡 佑子／訳 静山社
高校生の時に、朝の読書の時間に読む本を探して出会いました。分厚い本に担任の先生は驚いていましたが、10分があっという間に感じる作品です。

『BASARA』田村 由美／著 小学館

学生時代の読書と言えば漫画。友達から沢山借り、雑誌『りぼん』純粋培養の私が少年漫画にも目覚めそれからはO※△…!先生にバレて没収されたのも良い思い出。良い子はマネしないでね☆



司書 H

紹介した本はすべて図書館にあります。ぜひ読んでみてください。

～図書館の開館時間～

開館時間	日曜日～木曜日	10:00～18:00
	金曜日	10:00～20:00
	土曜日	10:00～19:00
休館日	毎月第1・3水曜日(祝日の場合は次の平日) 年未年始(12月28日～1月4日)	

大野城まどかぴあ図書館

第50号
2022 冬号

10代のための図書館情報誌

わいわいぱら

冬はめくめくこたつで読書



まどかぴあ図書館には、10代の方に読んでほしい本を集めたYAコーナーがあります。



おすすめの本



『すこしずつの親友』

森埜 こみち／著（講談社）〔YA/F/モリ〕

「親友って、どうやったらつくれるの」「わたし」の問いに「すこしずつの親友なら、すぐにでも出会えるわよ」と笑った伯母。彼女がこれまでの旅で出会った、ネパールの少年との会話や、ウルルのガイドの話は、すぐにでも親友と出会いたい「わたし」の心にゆっくりと響いていく。短い時間の中でも心を通わせ合った「すこしずつの親友」。その出会いが、いつか「本当の親友」につながるかもしれないと気付かせてくれる、素敵なお話。



『住所、不定』

スーザン・ニールセン／作（岩波書店）〔YA/933/ニ〕

フィーリックスは母親と二人で生活している。しかし、不運が重なって家を追われ、キャンピングカーで暮らすことになってしまった。一時的なはずの車上生活は思ったよりも長く続き、友達にも隠したままで、我慢ばかりの生活にもとうとう限界が！！そんな時、テレビのクイズ番組に出て、高額賞金を獲得し、一発逆転しようと計画する が…。絶望の中でも希望を持ち続け、仲間と前に進んでいく姿に勇気をもらえる一冊。



友だちとの時間



『あの子とQ』

万城目 学／著（新潮社）〔F/マキ〕

吸血鬼の弓子は、人間世界に溶け込み高校生として暮らしている。ある朝、目を覚ますと目の前に“Q”という謎の物体がいて、17歳の誕生日までの10日間、人間の血液を吸わないかを見張ると言う。しかし令和の吸血鬼として生きる弓子は、太陽や十字架も克服しているほぼ人間。絶対にそんなことはしないと言い張り、Qと対立する。ところがある日、事故に遭い、一緒にいた友達が命の危機に。血を吸って吸血鬼にすれば助けられるが…？



『JK、インドで常識ぶっ壊される』

熊谷 はるか／著（河出書房新社）〔YA/292.5/ク〕

15歳の時、父親の転勤によりインドで暮らすことになった著者。最初は不安だったが、サラサラ髪に憧れる友達のため日本製のシャンプーを使って盛り上がるお泊り会をしたり、野生動物（ジャッカル！）とともに陸上部の5kmランに参加したりと、日本の友達のインスタを羨みながらも、インドでの生活を楽しんでいた。そんなある日、学校のボランティアでスラム街で暮らす子どもたちと触れ合うことになり…。価値観がどんどん変わっていく日々を綴った、インドJKのリアル体験記。

